

目次

提言要旨	P. 1
1. はじめに	P. 2
（1）知立市の概要	P. 2
（2）交通の要衝としての知立市	P. 2
（3）知立駅周辺整備事業	P. 2
2. 現状と分析	P. 3
知立駅周辺整備事業の目的と市民の意向との溝	P. 3
（1）知立駅の利用状況と商店街	P. 3
（2）再開発事業による飲食店関係（主に居酒屋）の収用移転	P. 3
（3）駅周辺の道路整備	P. 4
（4）文化・歴史などの地域資源	P. 4
（5）市民ニーズの移り変わり（都市整備から高齢福祉・子育てへ）	P. 5
3. 課題抽出	P. 6
（1）行ってみたくなる ワクワク感 がない	P. 6
（2）歩いてみたくなる やすらぎ感 がない	P. 7
（3）住んでみたくなる 便利感 がない	P. 7
4. 施策提言	P. 7
4-1 ワクワク感の創出	P. 7
（1）昭和初期の空き家群と路地裏のリノベーションによる 古き良き時代の横丁を再現	P. 8
（2）シャッター通り化した商店街を宿場町の風情で再生	P. 9
（3）宿場町の商店街を巡って弘法さん参り	P. 10
（4）山車文楽・山車からくりの伝統文化をPR	P. 11
4-2 やすらぎ感を創出	P. 11
（1）イベントやアートによる感性を磨きつつ、安らぐ空間の創出	P. 11
（2）歩きたくなる並木道の創出	P. 12
4-3 便利感を創出	P. 12
（1）公共施設（市庁舎、図書館、中央公民館、保健センター）を 駅周辺に集積	P. 12
（2）駅周辺に子育てを支援する施設を設置	P. 13
（3）駅周辺に高齢者向け住宅を設置	P. 14
5. 過去の宿場町「池鯉鮒（ちりふ）」から未来の宿場町「知立（ちりゅう）」へ	P. 14

知立駅周辺の賑わい創出
かつての宿場町の輝きを取り戻し、住民と過客を潤す

理 想

「賑わいのある
中心市街地」

人と人が集い
ふれあい
行ってみたくなる
住んでみたくなる
歩いてみたくなるまち

理想と現状との溝

現状分析

- ・ 知立駅の乗降客数は多いが、駅周辺に滞留せず、商店街の空洞化が進んでいる
- ・ 東海道五十三次の宿場町だった面影がない
- ・ 「弘法さん」の参詣客の減少
- ・ 進行中の鉄道高架や区画整理、再開発事業により、自動車交通の利便性は向上するが、歩行者優先の計画になっていない
- ・ 再開発事業の収用移転により、居酒屋等の夜の賑わいが失われる
- ・ 一部の地域で昭和初期の木造の空き家群や狭小な路地が放置されている
- ・ 駅周辺に公共施設等がないため利便性が低い
- ・ 駅周辺に歩行者がやすらげる公園がない

賑わいのある中心市街地へ

課 題

- ・ 歴史的、文化的環境を活用しきれていない
- ・ 魅力的な商業拠点がない
→行ってみたくなる **ワクワク感**がない
- ・ 人と人がふれあえる場所、快適で安全、安心して歩ける歩道が少ない
→歩いてみたくなる **やすらぎ感**がない
- ・ 高齢化社会が進む中、駅周辺の好立地に生活環境機能が整備されてない
→住んでみたくなる **便利感**がない

施策提言

ワクワク感の創出

昭和初期の空き家群や路地を活用した居酒屋横丁や、商店街を宿場町の風情を取り戻すように再開発し、弘法さんまでの門前町といった趣のある商業ゾーンを創出する

やすらぎ感を創出

30m 道路の車線を見直し、歩道の拡幅と駅前公園との一体的整備により、誰もが安心して歩け、安らげる空間を創出する

便利感を創出

駅周辺に市役所や図書館、子育て支援施設などの公共施設を集約する。また、再開発により高齢者向け住宅や医療機関など生活関連機能を整備する